

一一〇一八年度・学力検査問題【国語】

(中学第一回)

注意

- 一、試験時間は50分です。
- 二、答えはすべて解答用紙にはつきりと記入しなさい。
- 三、解答用紙のみ試験終了後集めます。
- 四、問題は11ページで**一・二・三**の三題あります。開始の合図で必ず確認し、そろつていらない場合にはすぐに手をあげなさい。
- 五、本文の表現については、作品を尊重し、そのままにしてありますが、設問の都合上、省略した部分、表記を改めた部分があります。
また、特に指示のないかぎり、句読点も一字に數えます。

1～5の——線の漢字と同じ漢字を、次の中からそれ

ぞれ選び、記号で答えなさい。

1 創立四十シユウネンをお祝いする。

- ア 一日千シユウ イ 用意シユウ到
ウ 離合シユウ散 エ 無味無シユウ

2 シュショウ官邸で記者会見が始まります。

- ア シュ尾一貫 イ シュ客転倒
ウ シュ捨選択 エ 多シユ多様

3 事業に失敗しトウサンした。

- ア 馬耳トウ風 イ 徹トウ徹尾
ウ 荒トウ無稽 エ 抱腹絶トウ

4 スポーツ選手がインタイする。

- ア 一進イツタイ イ ゼツタイ絶命
ウ タイゼン自若 エ タイキ晩成

5 コウカンを持たれる人物である。

- ア コウメイ正大 イ ヒンコウ方正
ウ コウキ到来 エ デンゴウ石火

次の文章を読んで、後の問い合わせに答えなさい。

「私」(=正文)は、実家で母の世話をしながら生活している兄の「幸吉」から家庭の事情で母を施設に入れたいという相談を受け、娘の「万由子」と妻の「恵美子」を連れて帰省した。その夜、母の入所を巡つて兄と口論になつたが、兄もさんざん悩んだ上での決断であり、母もすでに承知していることを知つた私は、兄に代わつて母を施設まで送ろうと決めた。

家に戻り、娘を連れて母の部屋に邪魔をした。妻は茶の間で、ワイドショードを観ながら、義姉の話し相手になつてゐる。恵美子もちゃんと気を遣つてゐる。
縁側に面した奥の畳の間に敷かれた布団の上で母は横になつていた。その枕元には本好きの母らしく数冊の文庫本が積み重ねてあつた。それらは見るからに古くなつてゐた。大学受験を控えた頃、勉強の合間に台所へ下りていくと、食卓の椅子に座つて本を読む母の姿があつた。八月の午後にしては、風が吹き抜けるせいで随分と凌ぎ易い。母の部屋から見える庭の片隅に秋桜が揺れています。
「なあ、おふくろ、ホントにいいのか?」昨夜聞きそびれた、いいや避けた話題を持ち出す。
「うん? ああ……。幸吉たちに面倒はかけたくないからね」「だけど……」

「あたしのことで、あんただちがけんかするようじや、その方が辛い」

「……」

昨夜の、兄と言い争う声が聞こえていたのか……悔いる。

「それに、あそこには知り合いも結構いるし。好きなときに一時帰宅もできるからね」

一時帰宅。ならば一度、迎えに来るから東京に来るか、と言おうとしてとどまつた。^{※2からてがた}空手形を切つたところで、実現できなければ辛い思いをさせるだけだ。

「そ、そ、うか。それならいいんだけど」私は、それ以上、同じ質問はするまいと思つた。

ふと気づくと娘は、いつの間にか私の膝の上で昼寝を始めた。

「正文、子どもは可愛いだろ？」母は娘に目を向けながら微笑んだ。

「ああ、可愛いねえ」娘の額の汗を拭つてやりながら、そう答えた。

母は、身体を起こすと、傍らにあつたうちわを握り、それで娘に風を送る。²その風は同時に私へも届く。その姿は何十年経つても、子を気遣う親のものだ。ただ、うちわを握る血管の浮き出た母の手の甲に気づくとやるせない。

「お前たち夫婦は、子どもは要らないってよく言つてたから心配したんだ」

恵美子とは社内結婚だ。^{※3}広報部などという華やかな部署にいたせい

か、一般の〇しよりキヤリア志向が強かつた。

「私ね、子ども、そんなに好きじゃないし。何かピンとこないよね」ふたりが結婚を意識した頃から、恵美子はそういう予防線を張つていた。私も「ああ、オレもかな」と調子を合わせたが、絶対に要らない

かと問われれば、正直なところ分からなかつた。

「でも、こうして生まれてみると、こんなに可愛いものだとはなあ」

自分でも目が細くなるのが分かつた。そして、娘のゆびさきに触れ、そつと撫でた。その感触は柔らかく、この世の何よりも尊い気がした。

「それでよかつたんだよ。恵美子さんも同じだろ？」

産院で生まれた娘を抱いた瞬間、あれほど生き甲斐を感じていた仕事を辞めることを決めたのだから……。驚く私に向かつて「仕事はまたいつでも復帰できるし、それだけの自信もあるのよね。でも、この子は今、私を必要としている」と言い放つた。

「だけど、あの変わりようにはオレもびっくりしたな、ははは」

「女が仕事をしちゃいけないってことはないんだよ。やりたいことは悔いのないようによつた方がいい」母がしつかりとした口調で言つた。叔父から聞いた話によれば、母は女学校を出て教師になつたかったが、家は貧しく、上の学校へ進むことはできず、その思いは叶わなかつたのだという。おそらくそのせいなのだろう、恵美子が仕事を続けることを一度も咎めたことはない。

「でも、仕事は仕事。それに子どもがいれば、もつと暮らしに張り合ひができるからね」

「あいつ、今度はお受験だつて騒いでるよ。どれだけ大変か分かつてるのであるのかね」

母はうちわを持ち替え、また静かに扇いだ。

「親つていうのはそういうもんなんだよ。自分の子どものためなら何だってできる。どんな苦労だってする」

ふと、^{※5}姉さん被りをした母がカーネーションの箱詰めをする姿を思

い出した。

思えば、来る日も来る日も父と同じだけの農作業をこなし、夕刻には家族のために風呂を沸かし、食事の支度をした。

私が「母ちゃん、腹減った。早くメシ」と文句を言つても、母は私を叱つたことはない。それどころか、母は私の前で愚痴ひとつこぼしたものない。

決して贅沢な暮らしぶりではなかつたが、少なくとも飢えることなく育ててもらつた。それがどんなに大変なことか。疲れていただらうに……。家族を持った今なら、私にもその苦勞が少しは分かるが……。オレも万由子のためなら死ぬ氣で頑張るつもりさ。でも、子どものことと親のことは……」

私がそう言いかけると、母は小さく頭を振つた。

「お前も幸吉たちも、大病もせず事故にも遭わず、世間様から後ろ指を指されることなくちゃんと育つた。家庭を持つて立派にやつてるんだから、あたしはそれだけであわせだ」

「全然、立派じやないよ。何とか踏ん張つて感じだ。まあ厄介な問題も色々あるし……。いや、おふくろのことじやないよ、その……」

母は「うんうん」と穏やかに頷いた。

〔正文、人は生きていれば色んなことがある。でも、人の手はふたつしかないからね〕

「うん？ 人の手？」

「そんなに多くのことは抱えられないってこと。いくら大事なものを持つても、もっと大事なものができれば、先に持つてたものは手放さなきやならない。荷物を持つにも順番があるんだ。欲張つたり無理をすれば、それは大事な荷物じゃなく『お荷物』になるだけ。だから

今、お前がちゃんと抱えてあげなきやならないのは家族と仕事。親に

育ててもらつたら、今度は子どもを育てる。世の中は順番なんだから。

それが一番の親孝行になるんだから。お前は万由子のために一生懸命働けばいい」

「だけど……」

「ああ、この子は本当に可愛いね」母は私の次の言葉を遮るように娘の額に手を伸ばした。

「きっと美人さんになる。ほーら」

翌朝、みんな揃つて朝食を摂つた。私は努めて明るく振る舞つたが、味噌汁でさえ喉を通らない。

仕事へ出掛ける兄が玄関で靴を履き終えると「じゃあ、悪いが、頼むな」と、私の目を見た。私は「ああ、分かった」と大きく頷いた。

身の回りのものは、義姉が用意してくれたが、たつたひとつ段ボーラ箱に収まる程度の荷物が無性に切ない。

私は母の巾着袋の中に、私たち三人の写真を忍ばせた。

妻と私で母を支え、ミニバンの後部座席に座らせた。母は窓から家をしばらく見上げていた。その傍らで娘だけが「お出掛け、お出掛け」と無邪気にはしゃいでいる。

全員が乗り込むと「そろそろ、出発しようか」私はエンジンを掛け

た。

国道へ出て、町の東側へと向かう。

施設が悪だとは思わない。むしろ、そこで救われる人たちがたくさんいる。そういうことは頭では理解できるが、国道はまるで、※7うばす姥捨て山に続く細道のように感じられて仕方がなかつた。

バツクミラーに映る母の顔を見てしまつと『このまま、東京に行く

か」という気持ちがまたぶり返す。思わず私は頭を振った。

駅前を通過し、ひとつ目の信号を左折すると『美しの郷』の案内板が立てられている。その方向へハンドルを切ると、松林に囲まれた平屋の白い建物が見えた。

車を玄関前の大きな廊下に横付ける。

義姉が先に降り、玄関に置かれた折畳式の車椅子を取りにいく。

ハンドルに手を掛けたままじつとしている私に、妻が「あなた」と声を掛ける。私は「ああ」と答え車を降りると、母の方へ回った。

考えてみれば、この先、何度も里帰りができるか、いや、母に会いに来られるかも分からぬ。距離の問題ではなく、今までがそうであつたように、急に足繁く里帰りするというのもできないだろう。

車椅子を運んできた義姉に「義姉さん、ごめん。これ使わない」と、私はそれを遠ざけた。

私は後部ドアを開けたまま、その前に片膝をつき、母に背中を向けた。

「正文、どうした?」

「部屋までおんぶしてやるよ」

「うん?」

一生の内、親を背負う人間がどれくらいいるのだろう? 今、この機会を逃すと酷く後悔しそうな気がした。

「悪いからいいよ」

「いいから、大丈夫だから、さあ、おふくろ」

「お義母さん、私がお願いします」妻が諭すように頭を下げる。

「ばあちゃん、してもらえばいい」義姉も続く。

「悪いね。じゃあ、甘えさせてもらうよ」母はそう言うと、やつと私の背中に手を掛けた。

母の体重を背中に受け止める。兄の分までしっかり受け止めよう。戯れに……母を背負いてか……。啄木の歌を思い出す。だが、立ち上がつても三歩どころか、しばらくの間一歩も歩むことができなかつた。見つめた地面に涙がぽたぽた落ち、黒い染みになる。涙も出て、

両手を塞がれた状態では、それも拭うことは叶わない。

母が言つたように、人は歳を取つた分だけ荷物を抱え込む。でも、その全部を持つたまま人生を歩むことは難しい。ただ、今日の私の手は、母のためにある。

「おふくろは、お荷物なはずがない。おふくろはおふくろだ……」「そうかい……」

母は幼子を労るように私の頭をゆっくりと撫でた。

「ありがとうね、正文」

(森浩美『こちらの事情』双葉社より)

※1 義姉：兄である幸吉の妻。

※2 空手形を切つた：ここでは、実行されない約束をすること。

※3 広報部：会社の活動を宣伝する部署。

※4 キャリア：仕事。

※5 姉さん：働く女性の手ぬぐいのかぶり方。

※6 巾着袋：小物や手回り品を持ち歩くための袋。

※7 姥捨て山：ここでは、年老いた親を背負つて山に捨てようとする昔話を連想している。

問一

——線 a 「後ろ指を指される」・b 「足繁く」とあります。が、本文における意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。



問二

——線 1 「私は、それ以上、同じ質問はするまいと思つた」とありますが、その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア □だけの約束を交わしてこの場をやり過ごしたとしても、母

と兄夫婦の仲が思わしくないという現実は変えられないから。

イ 東京で母と一緒に暮らすことができない以上、母の決心がゆらぐような発言はすべきでないから。

ウ 施設に入れる以外に手段もなく、息子たち家族よりも自分の都合を優先する母の決心は変えられないと思ったから。

エ 東京で一緒に暮らすという話を軽々しく□にすることでの母がその気になってしまふことを心配しているから。

問四

——線 3 「でも、人の手はふたつしかないからね」とあります。が、この時の母の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 人間が生きる上でできることには限りがあると伝えながら、自分のことで悩む必要がないことをさとしたい。

イ 親として重要な役目である子育てを妻にまかせ、何事も全

力で働くことが最も尊いと息子に伝えたい。

ウ 人生は選択の連続で両方を手に入れられないで、友人のいるホームに行くことを選んだ以上、かまわないでほしい。

問三

——線 2 「その風は同時に私へも届く」とあります。が、この時の私の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 娘だけでなく私もうちわであおぐ母のやさしさは當時と同じだが、年老いてしまったため施設に入つてもらうしかない

と改めて思つてゐる。

イ 私を思う母の愛情は昔と変わらないが、その身体は確実に老いていることに気づき、施設で生活することが母の幸せだと考えている。

ウ 愛情深く接している母を見て、孫を心待ちにしていたことを知るとともに、母も孫を喜ぶような年齢になつたのだと思つてゐる。

エ 孫娘を思いやる母に私に対する心遣いも感じ取り、息子たちのために決心した母の愛情を実感するとともに、母の老いも感じてゐる。

工 世の中は子育てが終わつたと思ったら、子どもに面倒をみてもらう順番になるのだということを息子に伝えたい。

問五 線4「啄木の歌」について。

「啄木」とは 歌人、石川啄木のことです。石川啄木は、病気、貧乏、失職、一家離散など、その人生はつらいことの連続であったといわれます。そのような中で、人間としてのあこがれ、さらには悩みや苦しみまで、自身の中にふとかすめる思いを瞬間的に切り取り、巧みに表現することで読者の共感と支持を得たと評価されています。本文で取り上げられている歌は、啄木が二〇歳くらい、母が六〇歳くらい（当時においては高齢者であった）の時に詠んだもので

戯れに母を背負いて
そのあまり 軽きに泣きて
三歩歩めず

というものです。

この歌を詠んだ「啄木」と本文における「私」との歩けなくなつた理由の違いを説明した文を「啄木」と「私」、それぞれの心情にふれながら、それぞれの [] を補つて完成させなさい。

啄木は

を感じたために歩けなくなつたが、
私は

を実感したために歩けなくなつたが、

問六 本文について述べたものとして最も適当なものを次の 中から選び、記号で答えなさい。

ア 私と母の心のつながりを思い出を交えながら示すことによつて、兄に代わつて母を捨てるという罪の重さを強調しつつ、悲しみをきわだたせている。

イ 親から子、孫にわたる家族のふれ合いを描きつつ、現代社会における高齢化の問題を提示し、女性のキャリア志向を批判している。

ウ 子を持つ親という立場を通して、子に愛情を注ぐ大切さを再確認しつつ、親孝行もしなければならないことをうつしている。
エ 親からの愛情を次は自分の子どもに注ぎ受け継ぐことが親孝行だと言う母と、それを受け止めつつ親子のふれ合いを持とうとする息子の姿を描いている。

二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「人間は生きものであり、自然の一部である」というあたりまえのことを基本に置いた社会を組み立てて人類の未来を明るいものにしたい。科学技術が急速に生活の中に入り込み、グローバル化という言葉を日々耳にし、金融資本主義に振り回されてきた二十世紀後半から二十一世紀にかけての時を、生きものの研究で過してきた者として思うことである。

「人間は生きものであり、自然の一部である」ということは、^{※1}現生人類が地球上に誕生した二十万年ほど前からの事実である。だからこそ、そこから離れた生き方を求め続けてきたのが人類の歴史であったと言つてもよい。とくに近年は、科学技術の急速な進歩によつて空調をした高層ビルが並び、終夜灯火で明るい街での暮らししが日常になつた。¹生きものとしての感覚がはたらかない社会ができ上がり、進歩・成長を求める社会である。しかしこの延長上に明るい未来を描けるように思えなくなつてきているところに問題がある。そこで、

二十一世紀のこの時点で「人間は生きものであり自然の一部である」という事実の意味を問い合わせ、それを基本に置く社会を組み立てるために、現代の知を総動員したい。

ここではまず気になるのは、「グローバル」という言葉である。これは、二十世紀末以来、米国主導型金融市场経済によるお金と軍事で動く権力などが世界を席巻する社会をさす言葉として使われている。そして日本の場合、子どもに英語やコンピュータを修得させることができがグローバルへの対応とされている。「グローバル」という言葉の本来持つ意味を考えることなく、薄っぺらにグローバル、グローバルと唱えている

うちに、「本質を考える」という本来言葉によつて行なうはずのことを見忘れているのが今の社会である。「グローバル」とは「地球」であり、現代を表現するのにこれほど適した言葉はないと言つてよいのにである。

二十世紀後半から二十一世紀へかけて起きた大きな知の変化は、「地球の意識」であった。^{※2}一九六〇年代、米国のアポロ計画を中心に、宇宙へ飛び出すというフロンティアが示された。近代の歴史は、領土の拡大と科学技術によるフロンティアを求める拡大・成長に象徴される。それが宇宙にまで向けられた新しい時代が到来したのである。そして、月着陸の成功は、世界中の人に夢を与えたが、一方そこで明らかになつたのは地球のあり様だつた。宇宙の中にはぽつかり浮かぶ一つの星、しかもそれは生きものが存在するがゆえに美しい星としての「地球」が、具体的な形で人々に認識されたのである。その時言われた「宇宙船地球号」という言葉を古臭いものとして忘れてはいけない。今、私たちの生き方を決める前提は「地球上に暮らす人々は皆一つの船に乗つた仲間である」という認識である。これが「グローバル」の意味なのである。

実は、地球についてのこの認識が生れたのと時を同じくして、生物学が人間は地球上に暮らす数千万種とも言われる多様な生きものの一つであり、すべての生きものは三十八億年前に存在した共通の祖先から生れたものであることを明らかにした。しかもその中のヒトという種は一種、つまり七十三億人の人はすべてアフリカから出て世界中へと広がつた数少ない人々の子孫であることも明らかになつた。地球の特徴はそこに生きものが存在することであり、生きものたちは祖先を一つにする仲間であること、人間はその生きものの一つであるということは、事実は地球の上での私たちの生き方を考えるうえで大事なことなのである。

ある。しかも現生人類が生きものとしては一種であるという事実は、「宇宙船上の仲間」という意識を具体的に裏付けるものであり、これからも同じ「グローバル」の意味が見えてくる。

つまり、「有限の空間（資源）の中で祖先を共有する生きものの仲間と共に生きる」という認識を持つことでしか未来は考えられなくなつたのである。「グローバル」という言葉をおまじないのように口軍事力だとする生き方はこれとはまったく異なるものである。地球という新しい意識で、価値体系、科学技術、社会システムのすべてを組み立てる。今未来を考えると言つた時の具体的な内容である。

ここでは、「生きる」ことがすべての基本となる。医師で哲学者の川喜田愛郎は、「生きる」を四段階に分けた。⁴ 「ひたすら生きる」「巧みに生きる」「わきまえて生きる」「よく生きる」である。これは三十八億年前に誕生した祖先細胞以来の進化の過程で徐々に獲得してきたものであり、最後に登場した人間にはこのすべての生き方がある。「ひたすら生きる」の基本は食である。生きものはそもそも、子孫をふやし続けていこうとするものだが、食が生存数を制限し、バランスを保つている。人間の場合、農業を開拓し、食の生産によって制限を超えた人口を増やしてきた。これこそが人間の特徴である。しかし、「グローバル」を意識せざるを得なくなつた今、七十三億人、更には九十億人にもなるうとする人々が飢えることのない社会を考えるのは大変難しい。今や「地球」を視野に入れなければならないのであるから、単純に増産をするという答ではなく、**I 分配の公平性、教育の普及による人口増加の抑制などに答を求めるに至る。** 実はこれは「わきまえて生きる」「よく生きる」という項目にあたり、人間だからこそ可能な生き方である。つまり、「生きる」について、とに

かく生き抜くという「ひたすら生きる」から「よく生きる」まで、総合的な体系をつくることこそ、今求められていることなのである。

「巧みに生きる」は、身のまわりの生きものたちを見ていれば誰もが感じることである。**II 私たちは、アゲハチョウの母親が柑橘類の葉にだけ卵を産む仕組みを追つた。幼虫がそれしか食べない葉を産卵場所として選ぶのは、子孫を続けていくには不可欠なことである。**そこで、メスチョウの前脚に、その仕組みが巧みに組み込まれていることがわかった。あらゆる生きもののそれぞれが、自分が生き、子孫を残す巧みな仕組みを持っており、それは知れば知るほど感心するところばかりである。**III 人間もこの能力を持つてゐるのであり、それを生かすことが重要である。**

実は、自然離れすることを進歩としてきた現代文明では、たとえば食品の安全性を自分の感覚（色、味、臭い、手触りなど）で判断することをせず、記載された情報（原材料の記述、消費期限など）だけに頼る。そこで、期限を過ぎたものはすぐに廃棄し、大量の食品廃棄物を出しているのである。もちろん、情報の活用は重要だが、⁵ 「食べる」という生きる基本には、原則生きものとしての感覚の方が大事である。それには日常をより自然に近くするほかない。自然離れを求めた現代文明とは異なる方向^{※1} 探索である。これにはとくに子ども時代の体験が不可欠となる。日本の場合、一極集中から地域を生かす社会への転換が不可欠の状況にあるが、これを進めることは同時に自然に近い生き方の選択にもなる。高層ビルでの子育てを止め、日本列島の各地で子どもたちの元気な声が聞こえる社会へと移行することで、明るい未来へとつながる道がつくれるだろう。未来は子どもたちが創り出すものであり、その子どもたちが生きものとしての能力を充分に生かすことが、「グローバル」を本当のグローバルにする道だからである。

次に考える」とは、「わきまえて生きる」と「よく生きる」である。数千万種とも言われる生きものたちは、「ひたすら生きる」、「巧みに生きる」については私たち人間が学ぶべき能力を備えている。しかし、「わきまえて」、「よく」となると、これは人間が人間として生きるところで考えなければならない課題である。

生きものの世界では、皆が生きよう、更には子孫へと続いていこうとしている。しかし、^{*5}自然の摂理の中、あるところでバランスが生れ、

一つの生態系として存在することになる。ところで人間は、ヒトという生きものでありながら、言葉と技術を持つことで、他の生きものにはない文化・文明を生み出したという特徴をもつ。これこそ人間の人間らしさであり、いかに豊かな文化・文明を持つかが人間として生きることであると言つてもよい。

科学技術と金融経済を基盤とする現代文明ももちろん、その中で生れたものである。ただ、それが地球という器に対し、あまりの過剰^{*6}を求める文明になつてゐるために、さまざまな課題が生じている。そこで、単に進歩・成長を求めるのではなく、眞のグローバルを考える文明への転換が未来へつながる道であろうと思うのである。

そこで生かすべき考え方、「わきまえてとよくを取り入れた生きる」であろう。「わきまえて」とは、全体を見て自分の「分」を理解することである。地球上での物質循環や生態系をよく知り（ここで科学が活躍）、そのダイナミズムの中に人類の活動をはめこむ方法を考えるなら、「分」を越えることはない。具体的には自然のシステムを生かす文明の構築をすること、これこそ生きもの研究をしてきた者にとってやり甲斐のある挑戦である。「分」を理解するということは、自分が存在する世界全体を概観^{*7}するだけでなく、そこで暮らす人々（更には生きものたち）の暮らしをイメージすることである。また過去に学び、未来の人々の暮らしを考えることも不可欠な作業である。ここ

で活躍するのが「想像力」。これこそ他の生きものではない、人間を魅力的存在にしている能力であり、今最も活発にはたらかせなければならぬのがこれである。見えないものまでも見て自分を位置づけること。これができると安心感と安定感が得られ、自信が生れる。勝手にやりたい放題をしている時には、全体が見えないので不安になるのだ。眼の前の競争に明け暮れる社会が不安だらけで誇りが感じられないのは、「想像力」の欠如のためである。

最後に「よく生きる」が来る。これは難しい。そもそも「よく」とは何かが一つに絞れない。要是、前述した人間の特徴である「想像力」を生かすことだが、そこから生れる生き方の中で、現在最も必要と思われる言葉をあげるなら、「^{*9}寛容」ではなかろうか。生物界で多様なものが底に共通性を持ちながらそれぞれの生き方をしている状況には、どこにも優劣、善悪などの判断はない。もちろんそれは何でもありではなく、三十八億年という長い歴史の中で培つてきた約束事の中でのことである。全体の中での自分という位置づけあつての独自の生き方なのである。「寛容」の底にあるものは、まさに「想像力」であり、見えないものまで見て、自分以外の立場を理解し行動することが基本となる。権力を求めての争いなどばかばかしい。第一、今そんなことをしている余裕はない。地球上のあらゆる場所で、あらゆる人が、よく生きることのできる社会を想い描き、一人一人の「生きる力」（権力でなく）を思う存分生かし、それぞの社会を創っていくことが今求められている。

X

「人間が生きものであり、自然の一部である」ということから出発しさえすれば、少しも難しいものではないし、そこにしか未来はないと考えている。

（中村桂子『小さき生きもののたちの国で』青土社より）

※1 現生人類：現在地球上に存在する人類。

※2 アポロ計画：アメリカの月探査計画。一九六一年に計画を決

定、六九年には人類を初めて月に送った。

※3 フロンティア：最前線の分野。未開拓の分野。

※4 探索：たんさく、さぐりもとめること。

※5 自然の摂理：自然界を支配している法則や規則。

※6 分け与えられた性質、地位、力量。

※7 ダイナミズム：動き。活動。

※8 概観：がいかん、全体の内容を大まかに見ること。

※9 寛容：かんよう、広い心でゆるし受け入れること。

- 問一　□ I ↓ □ III に入る言葉として最も適当なものを次の中から
それぞれ選び、記号で答えなさい。（ただし、同じ記号を二度使つ
てはいけません。）
- ア たとえば
イ むしろ
ウ もちろん
エ しかし
オ つまり
- 問二　——線1 「生きものとしての感覚がはたらかない」とあります
が、その理由として最も適当なものを次の 中から選び、記号で
答えなさい。
- ア 科学技術の進歩のために、「グローバル」とい
う言葉をくり返し唱えること。
イ 現在では意味が変わっているのに、昔のままの意味で「グ
ローバル」という言葉を使いひたすら析ること。
ウ 人間の身勝手な利益追求を隠し、批判されないように「グ
ローバル」という言葉を使いひたすら析ること。
エ 現代文明の拡大をよいものと思って、「グローバル」の意
味を深く考えることなくくり返し唱えること。
- ア 科学技術の進歩のために自然環境が破壊され、生存そのも
のが脅かされてしまったから。

イ 科学技術が急速に進歩・発展し人工的な環境で暮らしてい
る中で、自然から離れた生き方が当たり前になつたから。
ウ 空調された高層ビルや終夜明るい街では、人間以外の生き
ものをみならつて生きていくことが難しいから。
エ 科学技術が進歩・発展することによつて人間は生きがいを
見いだせず、生の実感がえられなくなつたから。

問三　——線2 「グローバル」という言葉の本来持つ意味を考え
る」とありますが、どのようなことが明らかになつたことによつ
て、「グローバル」の「本来」の「意味」を考えるようになつた
のですか。二つに分けて、それぞれ三十五字以内で答えなさい。

問四　——線3 「グローバル」という言葉をおまじないのよう
にしながら」とありますが、「おまじないのように口に」する
とはどのようなことですか。最も適当なものを次の 中から選び、
記号で答えなさい。

ア 科学技術の進歩を正当化するために、「グローバル」とい
う言葉をくり返し唱えること。
イ 現在では意味が変わっているのに、昔のままの意味で「グ
ローバル」という言葉を使いひたすら析ること。
ウ 人間の身勝手な利益追求を隠し、批判されないように「グ
ローバル」という言葉を使いひたすら析ること。

問五

——線4 「ひたすら生きる」「巧みに生きる」「わきまえて生きる」「よく生きる」とあります。このいずれにも当てはまらないものを次の二つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分だけでなく他の存在を理解して生きる。

イ 社会的地位の向上のため競争をくり返して生き抜く。

ウ 全体を見て自分の「分」を理解して生きる。

エ 子孫を増やすため食を獲得しとにかく生き抜く。

オ 経済的な豊かさを追求して人間らしく生きる。

カ 子孫を残すために持つて生まれた力を生かす。

問六

——線5 「食べるという生きる基本には、一 大事である」とあります。ここには筆者のどのような考えが読み取れますか。

最も適当なものを次の二つ選び、記号で答えなさい。

ア 子どもたちが生きものとしての能力を充分に生かすことで明るい未来を創り出すことができるという考え方。

イ 子どもたちが生きものとしての感覚をみがくことで多くの情報から正しいものを選ぶことができるという考え方。

ウ 子どもたちが生きものとしての能力を充分に生かすことで人間だけが持つ特別な能力を再発見できるという考え方。

エ 子どもたちが生きものとしての感覚をみがくことで科学技術の進歩に歯止めをかけることができるという考え方。

問七

Xに入る文として、最も適当なものを次の二つ選び、記号で答えなさい。

ア 言葉の持つ本来の意味について、想像力でとらえていくことを大切にする社会。

イ 想像力豊かな、生きる力に充ちた人々が寛容の精神でつくる社会。

ウ 科学技術の進歩と生物学の研究により、地球に対する想像力を高めていく社会。

エ 生きものが生まれつき持つ能力によって、寛容の心を身につけていく社会。

〔国語〕

解答用紙（中学第一回）

受験番号

氏名

得点

- 二
問一 a

b
- 一
1

2

3

4

5
- 三
- 四

問五 啄木は

を感じたために歩けなくなつたが、

私は

を感じたために歩けなくなつてゐる。

問六

三

問

問

四

1

問

五

100

問

六

1

問

七

問

1

I

A small, empty square box with a thin black border, likely intended for a student to draw or write something.

II

III

1

www.wiley.com

問

問

—

